

平成 25 年 1 月 28 日

長野市都市整備部長
原 田 広 巳 様

長野市上千歳町 1413-34
コミュニティネットワーク長野
会 長 小 出 和 彦

南長野運動公園総合球技場の整備事業に対する提言－課題と代替案－

長野市をホームタウンとし南長野運動公園総合球技場をホームグラウンドとして Jリーグ入りを目指す AC長野パルセイロは、現在、日本フットボールリーグに所属し、2012 年度の最終成績は、2011 年度に引き続き 2 年連続の 2 位と活躍していながらも、スタジアムの問題で J2 昇格ができなかったことは、市民共通の課題として一日も早いスタジアムの整備が待たれるところでもあります。

このような現状に対し鷺澤市長は、地域密着型スポーツチームの活動を支援し、スポーツの振興及び地域の活性化を図るため、南長野運動公園総合球技場を 15,000 人入場可能な「スタジアム」に改修することを決定されました。併せて、大規模イベント時の駐車場不足を改善するため、周辺の駐車場等の再整備もこの事業に含めることにされました。これらにより総工費は、当初、試算した 60 億円より大幅に増え 80 億円の大規模事業になりました。

わたくしたちは、サッカー場の整備に反論を申し上げるつもりはありません。むしろ、より良い環境にて将来の長野市の発展に資するよう、そして、青少年の健全なスポーツ振興のためにも、加えて長野市の有るべき姿として県都にふさわしいサッカー場の建設は望むところでもあります。

別紙「南長野運動公園総合球技場の整備計画を検証する－課題と代替案－」は、サッカー競技の振興に対する行政のあり方、将来の公共交通機関や高速交通網の活用、北部信州の観光や産業振興などを総合的に考え、人口減少が進行する近未来において長野市を中心とした北部信州の将来を考えサッカー場の立地はどうあるべきかなど、近隣市町村議員及び有識者のご意見などを伺いながら有志にて検証した結果であります。

南長野運動公園総合球技場の整備計画は、多面的な考察が不足しているように思われます。この整備計画は、間もなくプロポーザルの提案が締め切られるなど、予定通りに業務が進められようとしているさ中に、「今さら」と思われことは重々承知のところではありますが、将来に禍根を残さないためにも、改めて別紙「南長野運動公園総合球技場の整備計画を検証する－課題と代替案－」をご一読願ひ、ご検討賜りたくお願い申し上げます。

以 上